

末澤明子先生を送る言葉

日 野 資 成

末澤明子先生は、一九九〇年四月に福岡女学院大学短期大学部国文科助教授として着任し、八年間短期大学に貢献されました。途中一九九六年度には、上智大学客員研究員として研鑽を積みました。一九九九年から福岡女学院大学人文学部助教授、二〇〇三年に教授となり、その後一八年間大学に勤められ、二〇一八年三月に退職されました。二〇一五年五月には、学校法人福岡女学院永年勤続表彰（二五年 院長）を受け、二〇一八年三月には名誉教授の称号を受けられました。大学に多大な貢献をされましたことに感謝いたします。

本学の学務活動としては、二〇〇七年度から二〇一三年度まで七年間、人文学部教務部委員長を務めた後、二〇一四年度から二〇一六年度まで三年間、人文学部現代文化学科長を務め、学科の教職員を中心として絶大なる信頼を得てきました。

教育活動としては、ご専門の日本古典文学関連の科目に加えて、一年生のアドバイザー、二年生から四年生までのゼミを毎年担当されました。日本文学関係の科目では、基礎知識の徹底とともに、文学のおもしろさを教えてくださいました。ゼミでは、調査の方法、論証の的確さ・論文の構成法を身につけさせながら、学生の関心を深めてゆかれました。「日本の文化」では、茶の文化を題材として、学生の日本文化を見る眼を幅広くするきっかけを作

られました。

部活動では二〇〇二年より表千家茶道部の顧問として、学生の指導に携わってられました。

二〇〇〇年には、福岡女学院大学人文学部開設十周年記念公開講演会で『源氏物語』享受史について読書形態を中心に述べられました。

社会活動としては、市民グループが発行している雑誌『心のガーデニング』に二〇〇六年から現在まで「古典の中の生活」と題して、一般人にもわかりやすく古典を連載されています。また、天神サテライトでは「博多文化学」の講座において、「博多と平安文学」を担当され、平安文学を地元九州にも広められました。

研究活動においては、中古文学会、物語研究会（役員）、和歌文学会、全国大学国語国文学会、上智大学国文学会に属し、源氏物語を中心にした、平安時代の物語文学研究を手がけておられました。その中で、物語とは何かを問い続け、それを日本文学の特質に対する問いに繋げ、その深い考察は、きわめて高い評価を得ています。また、論文集が刊行予定です。

チャペルの奨励も毎年担当され、聖書のメッセージを学生にわかりやすく、親しみやすく語られました。

末澤明子先生、長い間福岡女学院のためにご尽力くださり、まことにありがとうございます。先生のますますのご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げて、送る言葉といたします。